



現在の教員派遣制度は適切か？

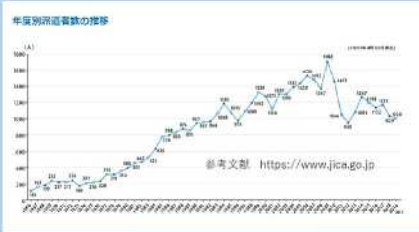
～解なき問いへの挑戦～

福岡県立八幡高等学校 須崎 内村 石迫 松山 堀田 園田 西谷 井上



私は「質の高い教育をみんなに」という目標の達成に向けて、現在行われている発展途上国に対する教員派遣に着目しました。

このグラフは、教員派遣を含む青年海外協力隊の派遣者数の推移を表しています。グラフから、その派遣者数は2020年の時点で減少傾向にあることがわかります。



このままでは、この先も減少していく可能性はかなり高いですね…。現在行われている教員派遣制度では、何か問題があるのでしょうか？



私は「先進国からの一方的な教員の派遣」という現在の方式に疑問を抱きました。そこで、派遣者数を増やすために**教員交換**という新たな教員派遣制度を考えました。

教員交換…？ 一体どのような制度なのですか？



教員交換とは、先進国と発展途上国の教員を1対1の割合で交換し、相手国の教育の利点を学び持ち帰って、自国の教育の質の向上につなげるという制度です。「**発展途上国の教員を先進国に派遣し、育成を行う**」というのが、従来の教員派遣制度と異なる大きな特徴です。



教員交換を行う上で、どのようなメリットがありますか？



教員交換には次のようなメリットがあります。

両国共通のメリット

- ・生徒に対しての教育支援だけでなく、教員の養成も同時に行うことができる。
- ・両国の教員の均衡を保つことができる。
- ・持続的に行うことができる。

発展途上国のメリット

- ・自国よりも進んだ教育環境で働くことで、質の高い教育を吸収し、自国の教育の発展につなげることができる。
- ・自国の教育環境の現状をより鮮明に先進国側に伝えることができ、自国の環境改善に大きく貢献できる。

先進国のメリット

- ・自国よりも厳しい環境で働くことで、より高質な意欲力、表現力を身につけることができる。
- ・自国とは異なる生活や文化を身をもって体感することで、物事に対する視野を広げることができる。

これで、両国の教員が教員交換に参加するハードルが下がりましたね！

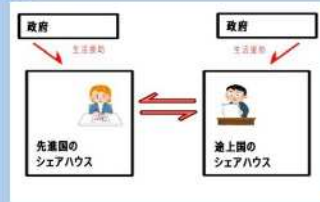


でも、派遣される教員の立場になると、派遣先での生活をサポートしてくれる制度がないと困るのではないのでしょうか。慣れない場所での生活は、不安が大きいのかもしれません…。



そこで、教員が現地に慣れるためのサポートとして、派遣された教員が思い共に生活する「**教員用シェアハウス**」というものを考えました。

派遣された教員の生活費や生活空間に対する不安を解消するために、両国が支援金を出し合って教員交換対象者限定のシェアハウスを設け、教員を経済的にサポートします。シェアハウス内では、教員の情報共有や同じ境遇ある安心感のもと交流が行われるため、教員の精神的サポートにも繋がるのではないかと考えました。



また、このシェアハウスを建設する際に先進国側の技術者が相手国に向いて技術支援を行ったり、シェアハウスの運営に現地の人々を雇用したりすることで、発展途上国の経済成長も期待できます。

教員に対する支援はありますが、生徒に対する支援はありますか？
例えば、授業で使用する言語は派遣された教員と生徒で異なりますよね？それでは、授業が成り立ちません。



授業を行う際の言語の壁を緩和するために、授業では翻訳者と翻訳機を取り入れます。



翻訳者

雇用機会の少ない翻訳者を雇う。



翻訳機

翻訳機器を取り扱う企業と連携して、授業内で使用する。

もし、これらの導入が難しければ、教員交換を行う前に教員に対して一定期間の言語研修を行います。

これらを経て、教員交換が成り立つのですね！



他にも、発展途上国の中には、ライフラインや道路の整備が完璧でない国があります。それらの解決には、他のSDGs番号との連携が必要不可欠です。

教育の面だけでなく、物事を多面的に捉えることが重要ですね。



この教員交換の実現には、まだまだ沢山の課題があります。私はこれから考えを深めていき、この教員交換という独自の制度をより実現性のあるものになりたいと思います。また、様々な教育機関にこの制度を提案していきたいです。

第2回高校生 SDGs 選手権大会 ポスター発表部門

学校名	福岡県立八幡高等学校
発表タイトル	現在の教員派遣制度は適切か?~解なき問いへの挑戦~
設定した課題	「先進国から発展途上国へ一方的に教員派遣をする」という現在の教員派遣制度のカタチを変えて「質の高い教育をみんなに」というゴールを達成するために「両国がお互いに教育の質を高めあえるような教員派遣制度を作りたい」という課題を設定した。
関連するSDGsのゴール・ターゲット	4c. 2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国および小島開発途上国における教員養成のための国際協力などを通じて、資格を持つ教員の数を大幅に増加させる。
ポスターの説明	私たち4b班は、教育の質を上げるためには教員の質を高めることが大切であるという点に向けて、かつ先進国だけでなく発展途上国にも教育を普及させるという観点から“教員交換”という案を考えた。この案は記事やネットから拾った案ではなく、4b班オリジナルの案となっている。そのため、まだ実際に行うことができていないから、様々な問題点がある反面、今までの先進国からの一方的な派遣からでは、得ることのできなかつた利点やスキルアップへとつながるきっかけがあると、私たちは考えている。高校生ならではのアイデアと、知識を出し合ってきたポスターなので、是非楽しんでみてほしい。
制作の意図やアピールポイントなど	今ある一方的な教員派遣制度を改善するために、新たな“教員交換”という制度を考案し、仕事内容・ルール・教員への支援やメリットなどを一から自分たちで考えた。金銭面の問題だけでなく、他の問題も含めて多角的に物事を捉えて、解決策を考えた。多くの人に興味を持って見てもらえるように、某会話アプリ風にアレンジした。他のSDGs番号との関連性を明確にして、連携することの大切さが伝わるようにした。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプラン作成型で探求を進めたため、アクションに根拠を持たせる必要があった点。 ・高校生では実行することが難しいアクションプランだったが、実行するにあたり実現可能な内容を考える必要があった点。 ・現在の海外の経済や環境の状況を把握し、どの分野から教育に繋げるのかを考える点。
その他(自由記載)	現在、新型コロナウイルスの感染拡大によって私たちの考えた“交換”を実現するのは困難であるがインターネットなどを用いて教員交換をどのよう教員にして普及させていくのかを考え課題の解決に繋げていきたい。